

とちぎだより通信

●ユネスコ無形文化遺産の祭り



とちぎには世界に誇る二つの祭りがあります。「烏山の山あげ行事」は毎年7月第4土曜を含む3日間開催され、450年以上の伝統を誇る絢爛豪華な日本最大級の野外劇です。また、「鹿沼今宮神社祭の屋台行事」は、豪壮な彫刻屋台が向かい合い、おはよしの競演を行う「ぶっつけ」が見どころで、毎年10月上旬に開催されます。

●国指定伝統的工芸品 益子焼



力強い美しさと温かな手触りが特徴の益子焼は、良質な陶土が益子で産出されることや大市場東京に近いことから発展を続けてきました。毎年ゴールデンウィークと11月3日前後には大規模な陶器市が開催されます。近年では若手作家が増え、おしゃれな陶器も生み出されています。

とちぎの観光

●日本三大美肌の湯 喜連川温泉



「もとゆ温泉」を中心に多くの温泉が点在する栃木県さくら市の喜連川温泉は、硫黄、塩分、鉄分を含む国内でも珍しい泉質です。肌への効果があると言われ、「日本三大美肌の湯」の一つに数えられています。日帰り温泉が多数あり、遠方からも人が集まる人気の温泉地です。

●県内唯一の重要伝統的建造物群保存地区を有する「蔵の街 栃木市」



栃木県栃木市は日光例幣使街道の宿場町として、また江戸との舟運による物資の集散地として栄えました。当時の繁栄をしのばせる歴史的な建造物が数多く残されており、「蔵の街」として知られています。趣のある街並みを散策し、昔ながらの雰囲気を味わってください。

知事からのメッセージ



栃木県知事 福田 富一

このたび、栃木県の魅力・実力などを分かりやすく紹介する広報紙「ふるさと“とちぎ”だより」を創刊いたしました。栃木県の旬な情報を、県内外で活躍されている本県出身の皆さまを中心に定期的にお届けします。皆さまにおかれましては、ふるさと“とちぎ”をより身近に感じていただくとともに、お知り合いやご友人など、多くの方々にとちぎの魅力をお伝えいただければ幸いです。

とちぎ未来大使紹介



福田 蒼太 (那須塩原市出身) 益子 卓郎 (大田原市出身)

U字工事

栃木県立大田原高校の同級生による漫才コンビ。栃木弁での癒し系のほのぼのとしたかけ合いや、「ごめんねごめんね～」といった返しで笑いを誘います。テレビやイベントなどで大活躍のお二人、とちぎを熱くPRしていただいています。

とちぎの魅力を丸ごと伝える アンテナショップ

「とちまるショップ」は、本県のえりすぐりの“味”や“もの”を販売するアンテナショップ。魅力あふれる県産品やとちぎの食を楽しめる飲食メニューのほか、県や市町の魅力を伝える観光情報やイベント、6次産業化商品の支援など、日々とちぎの魅力を発信しています。



東京都墨田区押上1-1-2 東京スカイツリータウン・ソラマチ イーストヤード4階 TEL:03-5809-7280

ご意見をお待ちしています

はがきに、郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号・感想・今後取り上げてほしいことを記入の上、次の宛先までお送りください。
〒320-0818 栃木県宇都宮市旭1-4-30
新朝プレス「ふるさと“とちぎ”だより」係
または右記二次元コードにアクセスしてください。



ご意見をいただいた方の中から抽選でとちぎの梨“にっこり”詰合せ5kgを20名様にプレゼントいたします。応募締切 2019年8月31日必着

問合せ

栃木県県民生活部広報課
〒320-8501 栃木県宇都宮市塙田1-1-20
TEL:028-623-2192 FAX:028-623-2160



栃木県の
県外事務所

【栃木県東京事務所】TEL:03-5212-8715
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館 11階
【栃木県大阪センター】TEL:06-6314-6123
〒530-0027 大阪府大阪市北区堂山町3-3 日本生命梅田ビル2階

ふるさと
“とちぎ”
だより

TOCHIGI DAYORI

創刊号

～とちぎの魅力発見!!～

COVER PHOTO: おしらじの滝
栃木県矢板市下伊佐野

SNSなどで話題のスポット「おしらじの滝」。幻の滝と呼ばれ、木漏れ日と相まって神秘的な雰囲気が漂っています。山の駅たかはらから那須塩原方面へ車で約5分の所から、人が踏み固めてきた道を10分程度下るとその姿を現します。普段は沢の水が少ないため、前日に雨が降るなどの条件がそろわないと見る事ができません。

とちぎの昔と今

実は知っているようで知らないとちぎのこと。昔の印象とすっかり変わった「旬」なとちぎの話題を集めました。



元気にしてっけ
こするといちごの香りが漂います
お試ください



現在の栽培の様子

日光 修学旅行の定番地から世界の日光へ

栃木県日光市は、昔から修学旅行の定番スポットとしてなじみ深い場所ですが(写真は正統時代のもの)、こうした児童・生徒のほか、最近特に目にするのが外国人観光客の姿。1999年、日光の社寺が世界遺産に登録されると、国内のみならず世界でも広く知られた存在となり、観光客入込数が増加しました。もちろん、世界遺産の二社一寺(日光東照宮、日光山輪王寺、日光二荒山神社)だけでなく、歴史ある街並みと文化、奥日光を中心とする雄大な自然は、日本人以外にも大きなインパクトを与えているようです。時期によっては、JR日光線、東武日光線の車内で、“乗客のほとんどが外国人”ということも珍しくはありません。



とちぎの魅力・実力

※発行日現在のデータによる

全国トップラスの
おいしさ「とちぎのお米」

栃木県産米の「コシヒカリ」「なすびかり」「とちぎの星」が米の食味ランキングで特Aを獲得!3品種が特Aを獲得したのは、関東では栃木県だけです。

日本のかんぴょう巻きを支えるとちぎ

食物繊維を豊富に含んだヘルシー食材として注目されている「かんぴょう」。栃木県はその生産量が日本で、国産かんぴょうの98%を生産しています。

全国有数の「ものづくり県」とちぎ

栃木県は製造品出荷額等が全国上位で、県内総生産に占める製造業の割合は全国2位。国内を代表する有力企業も多数立地する「ものづくり県」です。

「MADE IN とちぎ」が医療現場で大活躍!

栃木県は、病院での検査に使用する「X線装置」の出荷額が全国1位。虫歯治療に必要な「歯科用機械器具・同装置」も1位で、国内外の医療に貢献しています。

全長37キロ!世界も認めた歴史遺産

国内で唯一「特別史跡」と「特別天然記念物」の二重指定を受けている「日光杉並木街道」。世界一長い並木道としてギネスブックに掲載されています。

栃木県民は子育てに熱い!

栃木県は、「公立小学校の保護者行事参加率」が全国1位で、「父母それぞれの育児時間」なども全国上位!子どもとの時間を大切にす県民です。

源泉総数関東一!国内屈指の温泉県

鬼怒川、那須、塩原、湯西川など知名度の高い名湯が点在し、年間を通じて多くの人が訪れています。豊かな自然に囲まれて、至福のひとときを過ごせます。

“運動”も“観戦”もみんな大好き!「スポーツ王国」とちぎ

栃木県は人口当たりの「スポーツ施設数」が全国1位で、「スポーツクラブの使用料支出額」も3位。県内を拠点とするプロチームも多く、スポーツが身近な県です。栃木県小山市は、リオ五輪の国内市区町村出生地別メダル獲得数日本一(小山市調べ)。大相撲夏場所で双子の兄弟優勝の快挙を果たした貴源治関・貴ノ富士関の出身地でもあります。

いちご とちぎのいちごは50年連続生産量日本一!

とちぎを代表する農産物「いちご」。その生産拡大の歴史は1965年頃にさかのぼります。当時は「ダナー」、「麗紅」といった品種が生産の中心でしたが、栃木県独自の品種開発をスタートし、1985年には「女峰」が誕生しました。さらに1996年に誕生した「とちおとめ」は、果実の質や食味をアップ。現在日本で最も多く生産されているいちごです。



1960年代の栽培・箱詰めの様子

近年、県では贈答用の「スカイベリー」、夏に味わえる「なつおとめ」、観光いちご園向けの「とちひめ」などのさまざまな品種を開発。2018年には、いちご生産量が50年連続日本一となったことを記念して、全国に向けて「いちご王国・栃木の日」を宣言しました。その後も、白い果実が特徴の栃木iW1号や、栃木i37号などを新たに開発するなど「いちご王国」は盤石です。さらに2020年3月には、「全国いちごサミットinもおか」も開催予定です。

那須 進化を続けるロイヤルリゾート



1969年7月 黒磯駅 2018年8月 那須塩原駅

皇室の方々のご静養の場として使用される御用邸。全国に三カ所あるうちのひとつが、栃木県那須町にある「那須御用邸」です。1926年に本邸が完成して以来、夏季には歴代の天皇陛下や皇太子殿下がご家族と共に訪れ、お過ごしになられています。そのため、那須は“ロイヤルリゾート”として広く親しまれるようになり、ハイシーズンには多くの観光客が訪れるエリアとなりました。近年では、若い店主が個性あふれるお店を続々と出店させるなど、その魅力はますます高まり、さらに楽しめるリゾート地として進化を続けています。



大谷 観光地としてさらに魅力アップ

栃木県宇都宮市西部の大谷(おおや)地区。旧帝国ホテルの主要素材として使われてきた大谷石の採掘が行われてきた場所です。かつては職人が手掘りで採掘、石材の運搬は鉄道(現在は廃止)が中心で、大正初期から昭和にかけては蒸気機関車も走りました。1950年代には採掘が機械化され、ピーク時の1973年には年間89万トンも採掘されました。



写真提供/大谷石材協同組合



採掘を終えた現場のうちのひとつは、現在「大谷資料館」の巨大な地下空間として、多数訪れる観光客の一番のお目当てとなっています。その独特の景観から、映画やドラマのロケにもよく使われるなど、採掘の最盛期に勝るとも劣らない活気が見られます。



写真提供/大谷石材協同組合

宇都宮駅東口

2022年の完成を目指して整備がスタート

1日7万人以上の乗降があるJR宇都宮駅。1980年代に東口が整備された頃、鬼怒通りは建物もまばらでしたが、近年は高層建築物が建ち並び以前の面影はありません。駅前の市有地では、2022年の完成を目指しコンベンション施設などが整備予定。また、その年には東口と芳賀・高根沢工業団地を結ぶLRTの開業も予定され、期待が高まっています。



1980年代(中央奥が宇都宮駅)



現在の宇都宮駅東口(新幹線ホームから撮影)